



『 肺癌について 』

日本の肺癌の死亡数(2009年)は67,583人(男:49,035人、女:18,548人)で男女とも癌死亡原因の第1位です。また生存率も消化器系癌と比較して低く、5年生存率は20%前後です。原因は喫煙率の高さと人口の高齢化があります。

日本では過去40年以上に渡って男性の喫煙率が高かった影響で、今後20年以上は肺癌の発症数や死亡数はまだ増加することが考えられます。

ちなみに全国における鹿児島県の喫煙率(2007年)は男性で23番目、女性で47番目です。

肺癌の主な発見動機は 検診、 自覚症状、 他疾患観察中の3つですが、症状出現時にはかなり進行していることが多い為、早期発見が重要であることは言うまでもありません。

最近では、胸部CTの普及に伴い小型の予後良好な肺癌が多く見つかるようになってきました。肺癌CT検診の有用性については検証中ですが、自動車の車検同様に自身の体の定期的なメンテナンスが重要となってきます。



鹿児島厚生連病院
外科部医長 横枕 直哉